

## 「創作アート盆栽」と「短歌」で 命の美しさ、人生を表現

創作アート盆栽作家 太田あさこさん

「野の花、草の葉など毎日姿を変えるすべての自然、美しいものが好き。植物をそのまま写すのではなく、無駄な要素をそぎ落として、最も美しい瞬間を象徴的に表現しています」とほほ笑む太田あさこさんは御年91歳。現役の「創作アート盆栽作家」として、5月には松坂屋静岡店で個展を開き、好評を博しました。「創作アート盆栽」は、日本伝統の盆栽の心と形を、布や紙、レザー、染料などを用いて、創作する手工芸。一つ一つの花びらや松葉、木の幹など繊細な作業の連続で、大作ともなると完成までに数年を要することもあるとか。これまでに何度も個展を重ね、一度に約200種類の作品を出品しています。

「学生時代から続けてきた短歌もライフワークで、同人誌『望(あ)』に参加してきました。決められた枠の中で表現するという点で短歌とアート盆栽には共通点があり、等しく人生を写すものだと思います。創作アート盆栽に短歌を添えることで広がる、深みのある世界観が、多くの人を魅了する太田さん。いつまでも瑞々しい感性は、私たちのお手本です。



ありとあらゆる植物がモチーフになる。作品は赤い花が可憐な「はまなす」



細いワイヤーにテープを巻いて作る松葉を、少しずつ束ねていく。細かい手さばきは見事



太田あさこさん 菊川市生まれ。「日本工芸創作盆栽展 会長賞」「静岡県芸術祭短歌の部 奨励賞」受賞のほか、個展多数開催。歌集や作品集なども発表

元気の極意を聞いてみたい!

# いつまでも輝く人

【お元気の極意は?】

- ①感動する心を大切に
- ②あくなき工夫と研究
- ③自然体で生きる



「駿府ウェイブ」メンバー。  
■駿府ウェイブ/☎054(204)6655

高齢化が進む日本。この先の日本の活性化には、シニアの皆さんがいかにお元気に活躍してくれるかがカギとなります。そこで実際に輝いている人たちにお会いし、元気の極意を聞いてきました!

(小林かおり記者)

## 好奇心はますます盛ん! 静岡のおもてなしに尽力

観光ボランティア「駿府ウェイブ」

6月のある日、わんぱくな小学生たちを引き連れて元気に駿府城公園を歩き、歴史を教えたのは、平均年齢70歳代という観光ボランティア「駿府ウェイブ」の皆さんです。来年発足20年を迎え、NPO法人化を目指している同グループでは現在、登録メンバーが78人。会長の尾間吉生さんにお話を聞きました。

「駿府城公園や静岡浅間神社、日本平など市内6カ所です週末のガイドを行うほか、学校や観光会社などの要請を受けたり、独自の企画による歴史ウォーク開催など、1人年間30回余のガイドを受け持っています。1人前になるには、養成講座を受けたのち研修を重ね、1年半~2年はかかりますね」他のメンバーも「知らなかった静岡のことを知ることで頭の訓練にもなるし、仲間との出会いが魅力」「人を楽しませることができ、やりがいがある」と笑顔を見せてくれました。

【お元気の極意は?】

- ①静岡を愛する仲間と活動できる
- ②自然と体力が付き、頭も体もしっかりしてくる
- ③県外者など多くの人に出会い、日々、刺激を受けている

